

みんなが知らない！
アンゴラのこと

ワークシート

1. 「アンゴラ」の冊子を読んで、興味をもったこと、疑問に思ったことは何でしょうか。

.....

.....

2. アンゴラがかかえている課題を解決するために、どういう取り組みをしたらよいと思いますか。あなたの考えを書きましょう。

.....

.....

3. 将来、アンゴラで仕事をするとしたら、あるいは、アンゴラの人と一緒に仕事をするとしたら、どんな仕事をしてみたいと思いますか。それはなぜでしょうか。

.....

.....

年 組 氏名

2021年5月1日 初版発行
発行：独立行政法人 国際協力機構(JICA)
本書に関するお問い合わせ：JICAアフリカ部アフリカ第三課
〒102-8012
東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
Tel：03-5226-8215(年末年始土日祝日を除く9:30~17:45)
E-mail：6rta3@jica.go.jp
URL：https://www.jica.go.jp/



※国旗は、国連と同じく3:2のサイズで掲載しています。

監修：村尾るみこ(総合地球環境学研究所 研究員)
落合雄彦(龍谷大学 法学部 教授)
編集制作：株式会社 ワン・パブリッシング
編集協力：株式会社WILL
表紙写真：©JICA, ©Nick, ©Shutterstock.com, ©Getty Images,
©Kostadin Luchansky / Angola Image Bank © 2017

イラスト：伊藤美樹
デザイン：chocolate.

国連SDGs HP(https://www.un.org/sustainabledevelopment/)
The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States.



みんなが知らない！

アンゴラ
のこと



現地の中学生に
聞いたよ!



JICAは、日本の政府開発援助(ODA)を行う機関として、開発途上国への開発協力を実施しています。



海辺に広がる大都会! 石油とダイヤモンドの国 の 内戦の傷あとと復興

独立戦争に続く内戦という、40年間に及ぶ長い戦いがようやく終結したのは、2002年のこと。石油やダイヤモンドといった豊かな資源によって、アンゴラは目覚ましい復興と経済成長を遂げてきました。しかし原油の価格が下がり始めた2014年終わりごろから、経済は停滞し、復興も未完のまま新たな道を模索しています。

アンゴラ共和国 
The Republic of Angola



国旗の由来

赤は闘争で流された血、黒はアフリカの大地。歯車は労働者と工業生産、刀は農民と農業生産のシンボルで、黄色い星は国の豊かさをあらわしています。

内戦終結のアンゴラに つかの間差した「光」は……

1961年、アンゴラの人々は、ポルトガルの厳しい植民地支配から抜け出すために、独立戦争を起こしました。戦争は14年間にわたって続き、1975年によりやく独立を果たしますが、それは戦いの終わりではありませんでした。

長い戦争の間に、国内にはいくつもの勢力(組織)が生まれていたため、今度は激しい内戦が始まったのです。内戦はその後27年間も続き、50万人もが命を落とし、400万人もの人々

が難民となって国内外に逃れていきました。

そして2002年、停戦合意が結ばれてアンゴラの長い内戦はようやく幕が下ろされたのです。

それからわずか20年。アンゴラの復興は目覚ましいスピードでダイナミックに進み、首都ルアンダの海岸沿いには今、先進的で美しい風景が出現しています。

それを実現させたのは、世界の国々から求められる石油やダイヤモンドといった、アンゴラがもつ豊富な地下資源の力。内戦では、対立する勢力が兵器を買い、戦闘を続けるため

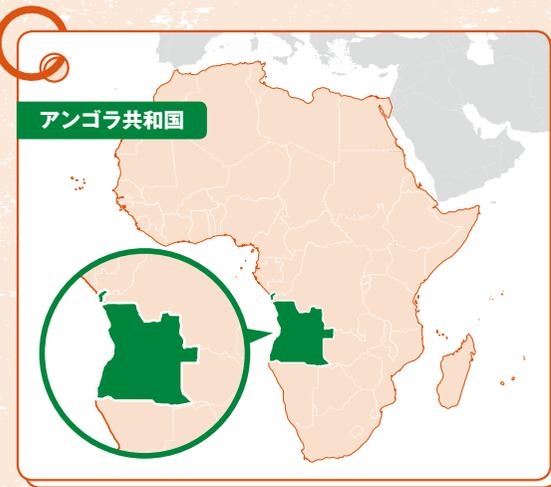
に使われていた資源が、国を立て直すことに使われるようになったのです。

急速に経済成長を続け生まれ変わったこの都市に、国外へ逃れていたおおぜいの難民たちが戻ってきました。新しい仕事を求めて、ほかの国からやって来る人も増えています。これが今のアンゴラの「光」の部分です。

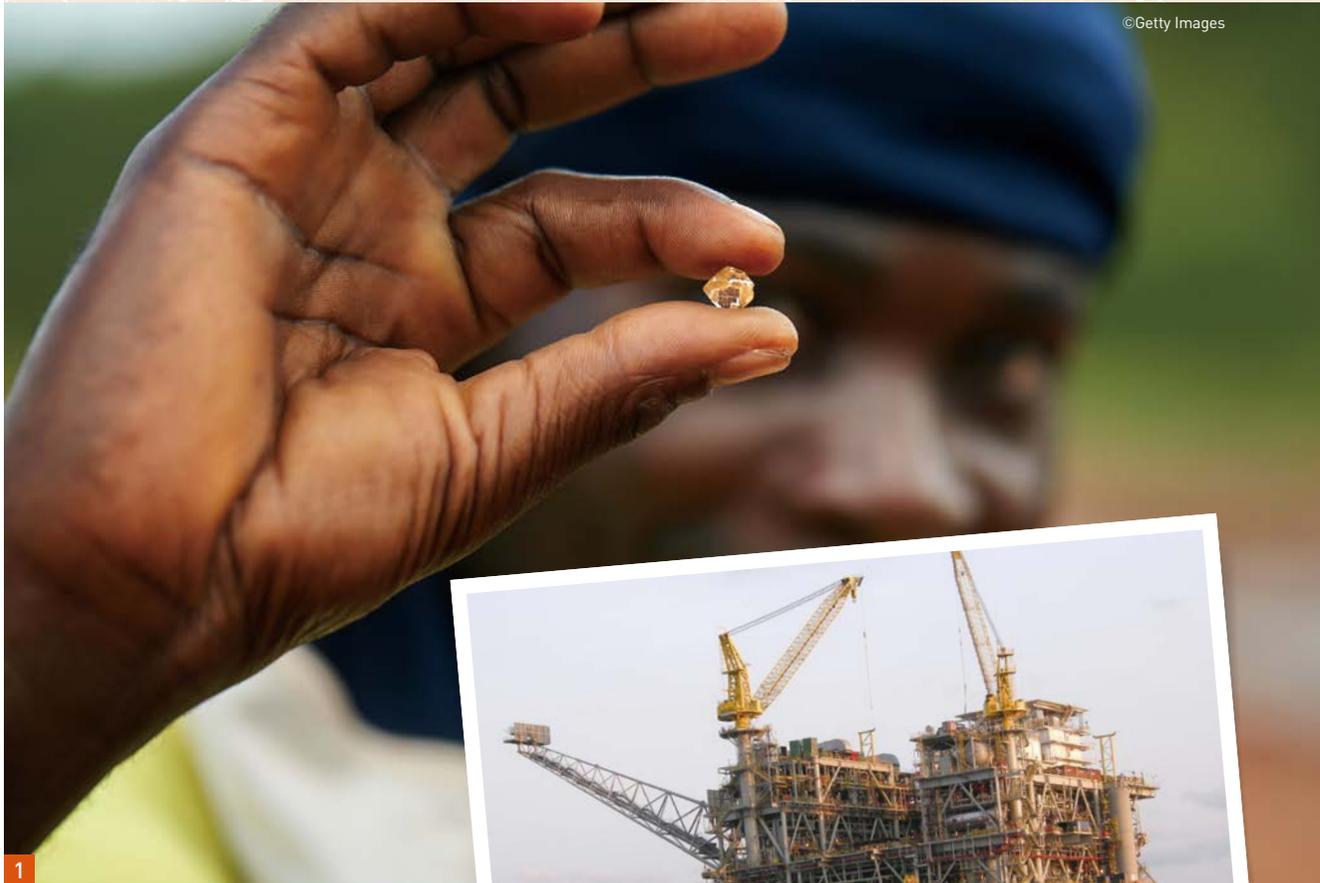
豊かで快適な生活を手に入れたのは、ごく少数の人たちだけ。原油価格の値下がりによって、景気は悪化し、新しいビルの建設も今は一部がストップしたままになっています。



首都ルアンダの海岸線に広がる、新しい都市。おしゃれな店やレストランも多い。



アンゴラ共和国



©Getty Images



©Christopher Poe / shutterstock.com

1.コンゴ民主共和国との国境のすぐ近くの村で見つかったダイヤモンドの原石。2.海底から石油や天然ガスを採掘・生産するためのプラットフォーム。

経済成長を支える 石油とダイヤモンドだが……

アンゴラは、ダイヤモンドの原石のような国、といわれます。実際にダイヤモンドも採れますが、それ以外にも金、銅、ボーキサイト、鉄鉱石、ウランなどが採掘されています。また、本格的な発掘が行われていないさまざまな地下資源が眠っています。

ダイヤモンドはほかの鉱物より早く、1980年代に調査と開発、そして90年代には鉱山の操業が始まりました。今では年間600万カラット(約1200kg)ものダイヤモンドが生産され、石油とともに国の経済を支えています。

一方の石油は、1956年から生産を始めていましたが、1999年からは大西洋で深海油田の採掘を開始。2000年代は石油開発ブームにわき、国の復興は大きく進みました。今ではナイジェリアに次ぐ、アフリカ2位の産油国に成長しています。

しかし、2014年後半になると石油生産が停滞し、原油価格も大きく下がったことで、アンゴラの経済成長は勢いを失いました。資源だけに頼る経済は、つねにその価格に左右され、とても不安定です。アンゴラはより安定した社会と経済を築いていくため、農業や観光、製造業など、そのほかの産業にも力を注ぎ始めています。

えっ!? ノート1冊が3000円? 世界でいちばん物価が高い街だった!?

・コラム・

©Laboko / shutterstock.com

アメリカ合衆国のコンサルティング会社が毎年発表する「世界生計費調査」で、首都ルアンダは2010年からこれまでに6回も、物価が高い都市世界1位にランキングされています。最近では落ち着いてきましたが、外国人向けのスーパーでは、キャベツが1個約2000円ということもあったそうです。内戦によって、農業や製造業などの産業が壊滅してしまったため、食料や建築資材など、生活に必要なあらゆるものを輸入に頼らなければならなかったことが、物価が高くなった大きな原因の一つです。



2017年の調査では、ハンバーガーセットの価格が東京670円に対して、ルアンダでは約1630円だった。

海底や宇宙に広がる大プロジェクト

アンゴラは、ブラジルとの間に海底光ケーブルを敷いています。大西洋をまたぐ距離は約6200km。ブラジルや、ブラジルを経由したアメリカ合衆国との通信を可能にし、産業の発展が期待されています。

また、2017年にはカザフスタンにあるロシアの宇宙基地から、アンゴラ初の人工衛星「AngoSat1」を搭載したロケットを打ち上げました。気象データの活用で食料生産を増やしたり、飢餓や自然災害の予防、遠隔地への医療の提供などを効率的に行ったりするためです。残念ながら、AngoSat1は故障で通信が途絶えてしまいましたが、今後AngoSat2を打ち上げる予定です。



©titoOnz / shutterstock.com

【アンゴラのかかえる内戦の傷あと】

復興の進んだアンゴラですが、まだまだインフラの整備は足りず、都市で安定した生活を送れるようになった人々にも、電気やガス、水が安定して供給されているとはいえません。

また、元兵士や内戦中に首都に流入してきた国内避難民、国外から帰ってきた難民たちの社会復帰も進んでいません。首都の至る所に貧しい人たちが暮らすスラムができ、治安や衛生状態の悪い環境で生活しています。



©Getty Images

国内で避難生活を続ける人々もいる。



教えて!



アンゴラって どんな国?

公用語のポルトガル語であいさつしよう

オブリガーダ
Obrigada.*
ありがとう。
*男性が言う場合は
オブリガード
「Obrigado.」

ボン ジーア
Bom dia.
おはよう。

ムイト プラゼール
Muito prazer.
はじめまして。

Q 暑い、砂漠という
イメージだけど、ほんと?

A 長い海岸線、高原、砂漠。
景色も気候もいろいろ

海岸沿いの首都ルアンダには、雨季と乾季があり、5~9月ごろの乾季は日本の夏より過ごしやすい気候。国土の半分以上を占める高原部では気温がさらに低くなりますが、ナミブ砂漠へ続く半乾燥地帯は、雨が少なくとても暑いです。



日光いろは坂のような、高原へ続く七曲がりの道。

Q どんな人々が
暮らしているの?

A さまざまな民族集団と少数
のポルトガル系の人々が共存

アンゴラ人は、さまざまな民族集団と少数のポルトガル系のヨーロッパ人で構成されています。都市で近代的な生活を送る人がいる一方、農村で暮らす人、村で独自の文化的な生活を続けている人もいます。



「世界で最も美しい民族」といわれるヒンバ人の女の子。

Q どんなものを
食べているの?

A ポルトガル料理や
パン、スイーツが自慢

とうもろこしやキャッサバの粉を熱湯で練った「フンジ」に、肉や魚介類をパームオイルで煮こんだシチュー「ムアンバ」を添えたものがよく食べられています。ポルトガルの植民地だったことから、パンやスイーツの種類がとても豊富でおいしいことも有名です。



栄養たっぷりのムアンバ。

Q 普通に使われている
日本語があるってほんと?

A 「刀」は、意味も発音も
ポルトガル語と同じ

ポルトガルとの交易によって、パンやカルタなど、ポルトガル語由来の日本語があるように、日本語由来のポルトガル語もあります。国旗にも描かれている刀「CATANA」は、発音も「カタナ」。武器であり、農具でもある刃物です。



1961年、ポルトガル軍にCATANAだけで立ち向かった2月4日は、「カタナの日」と呼ばれている。

データで見るアンゴラ

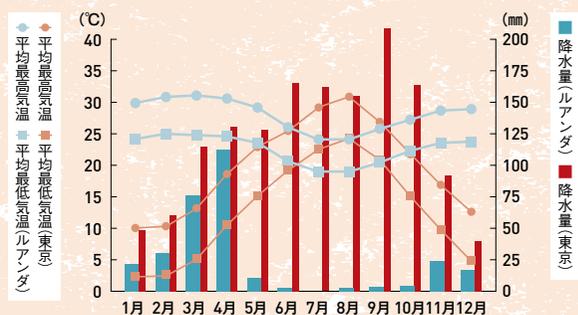
基本情報

- 人口: 3286万人(2020年推計値)
[東京都1397万人]
- 面積: 124.7万km²(日本の約3.3倍)
- 人口密度: 26.4人/km²(2020年推計値)
[日本346.9人/km²]
- 首都: ルアンダ
- 言語: ポルトガル語(公用語)、そのほかウンブン、ドゥ語など
- 宗教: 在来宗教(約47%)、キリスト教カトリック(約38%)、キリスト教プロテスタント(約15%)

*人口密度は、推計人口とは出典が異なるため、計算すると値が異なる場合がある。

●年間平均気温と降水量(ルアンダ)

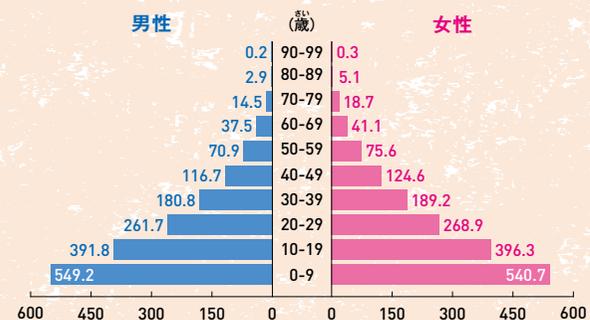
広い国土には、サバナ、熱帯雨林、砂漠気候の地域があります。ルアンダはサバナに近い気候です。



出典:世界気象機関

●人口構成

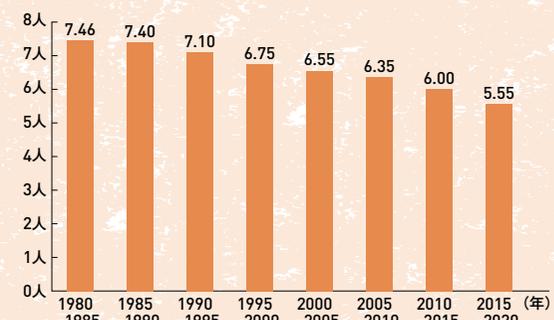
ピラミッド形の人口構成です。内戦で亡くなった人も多いため、人口が若者に偏っています。



出典:「世界人口推計2019年版」(2020年推計値)

●1人の女性が産む子どもの数

割合で考えると、出産可能な年齢(15~49歳)の女性1人につき、5人以上子どもを産む計算です。



出典:「世界人口推計2019年版」



教えて! アンゴラの中学生のこと

教えてくれたのは

ムブカカ・マキアディさん

ドン・アフォンソ・ンテカ中学校の3年生、14歳。



日本はとっても進んだ国だって、知ってるよ!

Q どんな名前が多いの?



A ぼくのムブカカという名前は、アンゴラでよくある名前だよ。悲しみという意味なんだ。女の子なら、マキエッセ。幸福という意味なんだよ。

アンゴラ人は、ポルトガル統治の影響で、ポルトガルふうの名前の人がたくさんいます。アントニオやフェルナンド、テレサやエリザなどの名前です。

Q 友達とどう過ごすの?



A 一緒に好きな音楽を聴いたり、物語を読んだり、勉強したりして過ごしてるよ。

Q 人気のスポーツは?

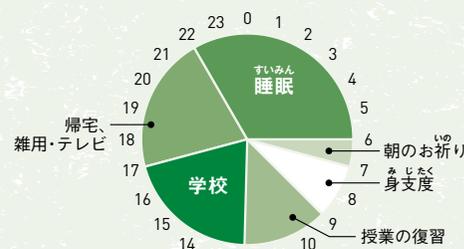


A サッカーとバレーボールだよ!

Q どんなふうに一日を過ごすの?



A 学校は午後からで、午前中は自分で授業の復習をするよ。その後、12時15分に登校し、授業が終わるのが17時。放課後は雑用をしたり、テレビを見たりして過ごすよ。



アンゴラでは、小学校6年、中学校3年、高等学校3年の終了時に試験があって、それに合格しないと卒業できません。小学校から留年制度が設けられているのです。

Q お気に入りの食べ物は?



A ご飯と焼いた肉、パン、クラッカー、フルーツジュース!

学校制度

	6歳	6年 12歳	3年 15歳	3年	4年
アンゴラ	小学校 (1~6年生)	中学校 (1~3年生)	高等学校 (4~6年生)	大学	
日本	小学校	中学校	高等学校	大学	

教えてくれたのは

スザナ・アルミンド・ボニファシオさん

ドン・アフォンソ・ンテカ中学校の3年生、15歳。



私が住む北部の州の首都ムバンザコンゴは、アンゴラで唯一、世界遺産に登録されているよ。

Q どんな勉強をするの?



A 学校で習っている教科は、ポルトガル語、数学、地理、歴史、生物学、化学、物理学、英語、美術、体育、道徳。そのほかに、市民教育や労働教育の時間もあるよ。

アンゴラの義務教育は、幼稚園の1年(5歳)と小学校6年の合計7年間。1学年の期間は2~12月までで、日本と同じように3学期に分かれています。小学校に通っている子どもの割合は100%ですが、中学校ではその割合は72%に下がり、高等学校に通う子どもは全体の27%ほど。中学校を卒業した後、4年制の職業技術訓練学校や教員養成学校に進学する子どももいます。

Q アンゴラはどんな国?



A アンゴラはとても美しい国! たくさんの動物、植物が見られて、とても居心地がいいところだよ。石油が豊富なのも特徴ね。

Q お気に入りの食べ物は?



A クラッカーや米、豆、丸い揚げドーナツ、それからフレッシュジュースが好き!

アンゴラでよく飲まれているフレッシュジュースには、オレンジやキウイ、マンゴー、パイナップルなどのほか、バオバブの実のジュースもあります。バオバブはアフリカに多く見られる巨大な木で、世界一、幹が太くなる植物といわれています。ジュースはさっぱりしておいしいのです。

©mbrand85 / Shutterstock.com バオバブの木。



Q 友達と何して過ごすの?



A 外でクッキーを食べながらおしゃべりをしたり、勉強したりしてるのよ。

もっと知りたい / アンゴラ②

スポーツと音楽、そしてダンスを愛する人々



1.女子ハンドボールチーム代表はアフリカのチャンピオン。2.町中でサッカーをする若者。

いちばん人気はサッカー。空手や柔道も盛ん

アンゴラはスポーツの盛んな国。最も人気があるのはサッカーですが、都市部を中心にバスケットボールやハンドボール、ローラーホッケー、柔道や空手なども人気です。

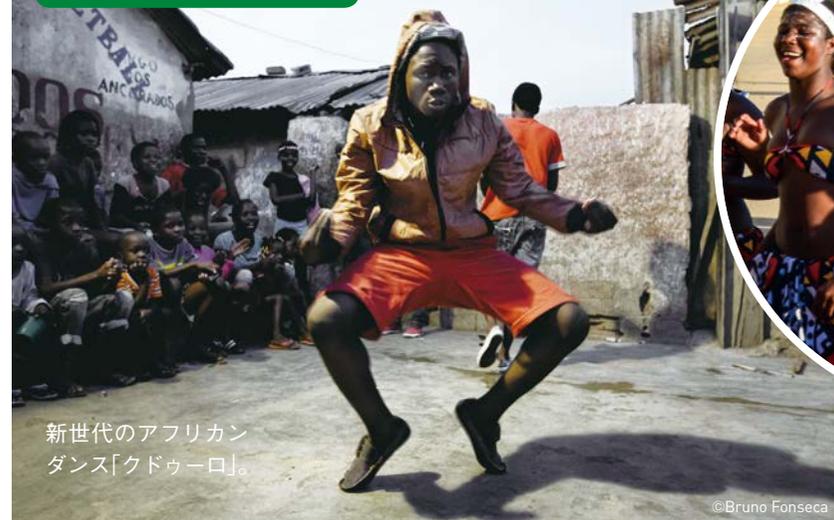
柔道の競技人口は約2万7000人、空手は約5000人で、ロウレンソ大統領も空手が趣味。各州にそれぞれの協会があり、それを束ねる全国連盟が毎年全国大会を開催しています。柔道と空手が普及しているのは、単なるスポーツとしてではなく、「規律と礼儀作法を重んじる日本の武道精神」が尊ばれているからだとい

います。

女子ハンドボール代表チームは、アフリカの強豪として活躍中ですが、アンブティ(切断障がい者)サッカーでも、2018年のワールドカップでアフリカ勢初の優勝を果たしています。

アンブティサッカーは、主に腕や足の切断手術を受けた人々によるサッカーで、専用器具ではなく日常生活やリハビリに使用する松葉杖を使って行うため、障がいがある人々が気軽に楽しめるスポーツとして、急速に認知度や人気が高まっています。アンゴラでは、長い内戦の間にたくさんの地雷が埋められたため、地雷被害によって障がいを負った人が少なくありません。

DANCE&MUSIC



新世代のアフリカンダンス「クドゥーロ」。



©Alamy / PPS通信社

リオのようなダンスカーニバルも開かれる。

日常生活に溶けこむ音楽とダンス

アンゴラの人々の日常には、古くから心を沸き立たせる音楽とダンスがありました。ブラジルへ渡って「サンバ」になった音楽とダンスも、実はアンゴラの「センバ」がルーツ。もともとは作物の収穫や結婚、子どもの誕生などを祝って演奏され、踊られてきました。

センバから生まれた「キゾンバ」は、男女がペアで踊る情熱的なダンス音楽。それよりさらにアップテンポでエネルギッシュな「クドゥーロ」とともに、近隣の国々だけでなく、ポルトガルを経由してヨーロッパへも広がっています。

都市部のクラブやライブハウスだけでなく、公園や町のあちこち、そして農村でも、人々が踊っている姿をよく見かけます。

JICAの協力

今も人々の生活をおびやかす地雷

対人地雷は、土の中や地表に設置され、人が接近したり踏んだりすることで爆発する兵器です。数百円という安い値段で製作できるため、アンゴラの全土にはたくさんの地雷が埋められました。

一度埋められた地雷は、だれかが踏むか、取り除かない限りなくなることはなく、そのため内戦後もおおぜいの人、特に子どもが、亡くなったり大けがをしたりしています。

日本政府は、1990年代から地雷をなくすための支援を始め、2002年の内戦終了からは、本格的な調査と除去活動を続けています。JICAからの専門家の派遣や研修、NGO*の協力もあり、2007年には3277か所もあった危険区域は、1416か所になりました(2018年)。しかしまだ約158km²(東京ド



2025年末までにすべての地雷除去を目指している。



ム約3390個分)もの土地に、地雷や不発弾などが埋まっている可能性があります。2017年だけでも25人が死亡、18人がけがを負いました。

地雷除去がさらに進めば、有効活用できる土地も増え、安心して学校に通えるようになり、国の発展にも大きな力となります。

*NGO…非政府組織。世界的な問題の解決を目的とした、利益を求めない民間の団体。

残された自然と 戻ってきた野生動物

ミラドゥーロ・ダ・ルーア

ポルトガル語で「月の展望台」。水に溶けやすい石灰岩などでつくられた台地が、雨や川、地下水などによって溶かされ、けずり取られてできた、神秘的で美しいカルスト地形である。



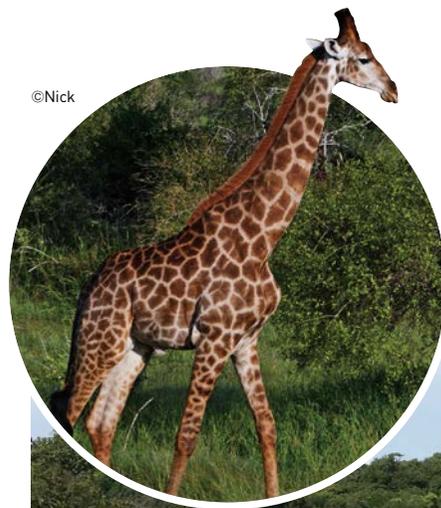
1650kmに及ぶアンゴラの海岸線には、ルアンダ港、ナミベ港をはじめとするいくつかの港や海水浴を楽しめる美しいビーチ、人気のサーフスポットなどがあります。内陸南部にはナミブ砂漠へ続く半乾燥地帯、中央部には丘陵地や最高峰のモコ山(標高2620m)をはじめとする高い山脈が広がっています。

アンゴラの山岳地帯は、南部アフリカの給水塔ともいわれる場所。雨季に降る大量の雨は、全長1000kmにも及ぶクワンザ川やザンベジ

川、オカバンゴ川などの大きな流れを生み、巨大な滝やめずらしい生態系を育てながら、国内はもちろん、周囲の国々を潤しています。

国内には6つの国立公園や自然保護区があり、首都に近いキッサマ国立公園は、車やボートでのサファリツアーが楽しめる人気のスポット。長い内戦や急速な復興の過程で自然が破壊され、動物たちも大きく数を減らしましたが、保護団体などの、さまざまな活動によって、以前の状態に戻りつつあります。

©Nick



キッサマ国立公園

首都ルアンダから南に約80km。国内最長のクワンザ川が流れる、緑豊かな美しい国立公園。サバナ、森、川、湿地帯などの多様な生態系の中で、さまざまな動物と出会うことができる。



©Nick

カランドゥーラの滝

アフリカで2番目に大きいカランドゥーラの滝は、落差105m、幅は約400mもある！まだ観光地化されていないため、手つかずの雄大な自然を楽しむことができる。



ウェルウィッチア

ナミブ砂漠だけに生息する植物、ウェルウィッチア。和名は「奇想天外」。本葉を1対2枚しか出さず、生涯ゆっくりと伸ばし続け、寿命が1000年以上ともいわれる。



©Nick

【「パランカネグラ」って?】

パランカネグラは、2本の長い角をもつ、世界で最も美しいといわれる黒いアンテロープ(レイヨウ)。後ろ向きにカーブする優美な角の長さは、1~1.2mもあります。アンゴラ固有の動物で、内戦によって一時は絶滅しそうになりましたが、現在は保護区を設け、国をあげて保護しています。サッカー・アンゴラ代表チームの愛称や国営航空会社TAAG(アンゴラ航空)のロゴマークとしても使われ、アンゴラのシンボルにもなっています。



© Kostadin Luchansky / Angola Image Bank © 2017

もっと知ろう！ アンゴラ④ / 人々の命と安全を守り、 健やかな成長を実現するために



父親の育児参加を呼びかけるため、表紙にはお父さんのイラストも。文字が読めない人のために、イラストがたくさん使われている。

赤ちゃんとお母さんを救え！ 日本発のアンゴラ母子健康手帳

日本の赤ちゃんのほとんどは、清潔で安全な環境で、医師や助産師のサポートを受けて生まれてきます。しかし内戦で国内が荒廃したアンゴラでは、医師も看護師も医療施設も不足していて、お母さんたちが安全な出産や子育てをするためのサポート体制が整っていません。

そのため生まれてくる赤ちゃん1000人のうち22人が亡くなり(日本は1人)、妊娠・出産を通して69人に1人のお母さんが亡くなっています(日本は1万6700人に1人)(2018年)。

そこで2016年に開始されたのが、母子健康手帳のプロジェクト。日本の専門家チームとアンゴラの小児科医、WHOやユニセフの職員などが集まって、妊娠中から出産後まで、赤ちゃんとお母さんの健康をサポートする母子健康

手帳をつくり、まずはその使い方やお母さんたちへの指導方法などを、医療従事者に伝えました。

イラストがたくさん入ったカラフルな手帳は人気となり、これを手に入れるため産前健診に訪れる人が多くなりました。それまではゼロだったお父さんの育児参加も少しずつ始まり、アンゴラの赤ちゃんとお母さんたちの未来は着実に明るいほうへ向かっています。



現地の医療機関に、母子健康手帳が届けられる。

サポートの方法は一つじゃない

アンゴラのお母さんと赤ちゃんの死亡率が高いことには、医療施設や人材の不足(自宅での出産)、出産に関する知識不足、栄養不足や病気、若すぎる年齢での出産(体が出産にもちこたえられない)など、さまざまな理由があります。

一見関係がなさそうに思える、電気が通っていないことや道路が整備されていないことなども、出産で突発的な問題が起こったときには、赤ちゃんとお母さんの命を左右します。

JICAの協力

人材を育てる

母子健康手帳の導入だけでなく、お母さんやその家族、地域の人々が保健教育を受けられるよう、医療従事者に対して、母子健康手帳を活用した指導方法などの研修を行っています。

また、水や電気など、生活に必要なインフラ整備を行う技術者も育てています。



母子健康手帳の使い方や妊産婦と赤ちゃんのサポート方法を学ぶため、医療スタッフは5日間の研修を受ける。



©JICA

医療施設の整備

アンゴラ最大の総合病院である、ジョシナ・マシエル病院の改修や新しい棟の建設を行いました。手術台や内視鏡などの医療機材の整備を通して、アンゴラの医療サービスの向上を応援しています。

日本の協力の象徴となっているジョシナ・マシエル病院。



©JICA

農業でも応援

5歳未満の子どもの死亡原因の半分には、栄養不足が関わっています。栄養価の高い米や野菜の生産量が増えるよう、かんがい設備をつくったり、日本の強みを生かした農業指導を行ったりしています。

地元農家や稲作普及員らに技術を指導。



©JICA